



## 「節 目」

創腎会々長 上 田 弘

「一年の計は元日にあり」と云いますが、何事にも「節目」と云うものがあります。

私共の腎友会では3月末日で一年間の活動なり会計処理について決算し、節目としての総会を開く事になっています。

その総会では一年間の実行結果に対するあらゆる事項を会員の皆さんに提起し、その結果の良否を判断してもらいます。ですから、この総会は組織を結成しているものについては一番重要で大切な会合となります。

総会には過ぎ去った一年間の活動内容とか行動内容を反省し、予算等が適正に使用・管理されているかを会員の皆さんが確認して、内容等に問題点とか疑問がある時には会員が直接指摘出来る組織として最高の議決機関であります。

創高地方腎友会も100名以上の会員で組織しているわけですから、会が個人においては色々な御意見・御批判があると思います。どうか腎友会が前進する為の意見とか御批判は卒直に話してもらい、そのことを皆さんで充分に検討することが総会とか会合における最大の目的ではないでしょうか。

心の中に『モヤモヤ』した気持ちを持っている方々は是非お話ししてほしいと思います。

充分に話しを聞かないために、腎友会におかしな不信感をもち、会員同志がいやな思いをし、会の中が混乱した事実もあります。これらも会員と役員との話し合いを密にする事によって解消出来た事が、それがなければかりに会員同志のウワサ話が大きくなり、予想外の結果になった事もあります。

前年度の反省をもとに新年度の行事計画を立てるわけですが、透析で苦勞している多くの方々が『楽しみ』ながら、各病院の会員・スタッフがお互いに『交流』を深め『親睦』をはかりながら、これからの透析生活の有効な手段として色々な行事を計画し実施するわけです。

会員の皆さん、今はちょうど来年度に向けての行事計画を立案中であります。

腎友会として『多くの方が参加して楽しむ』

る』ことを前提として計画するわけですが、透析患者であり構成員も男性と女性が約同数であり、年齢も大きく離れていることから実施するのも土・日に限定される……など、色々難しい条件もあり、役員だけの頭脳では目新しい行事が出来ませんので皆さんの中から幅の広い提案を是非積極的に出してほしいと思います。

最近では腎友会に対する無感心層が多いように思います。「透析器械の心配」はない、「医療費の心配」もない、「職場も継続」して働ける、「生命の危険」もほとんどない、などと透析医療を取りまく状況は大きく変化しております。今や透析患者も一般健常者と同じように生活出来る環境が出来上がって来ています。

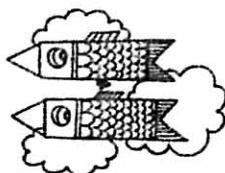
皆さん、良く考えてみて下さい。

透析患者が今後とも安心して透析を受けれると云う保障があるでしょうか……？

透析患者の増加（全国では年間導入者12,000名、死亡者1,000名、実質増5,000名）にともない施設・スタッフ・医療費の問題、等々数多くの問題点が発生して来るのが間近となって来ているのではないかと。

この外にも問題点も山積していると思います。無感心ではなく、積極的に問題点を出し合い、これら問題点解消に向けて皆さんと共に名案を出し合い、透析患者の医療・福祉向上にむけ頑張らしましょう。

シャント



腎友会の総会を5月19日(日)開催します。そこで会員の皆さん全員に総会資料を前もって配布し、事前に充分検討していただき、総会当日は資料の読み上げはせず、皆さんの質問に答える方法をとります。

よろしく御協力下さいます様、お願い致します。(資料配布・会場等については後日連絡します)。

昭和60年度腎友会の役員選出について。皆さんの病院では幹事さんの選出はお済みですか。4月13日の幹事会までに『新年度幹事』の選出、報告をお願い致します。

今後、総会関係のお知らせについては、そのつど、連絡文章を流しますので、よろしく御確認下さい。

腎友会事務局

### 『楽しかった日帰り温泉旅行』

林田クリツク 斉藤昭作

去る2月24日(日)の日帰り温泉旅行に参加しての感想をひと言。

ひとくちで言って『楽しかった』、行きのバスの中でクイズで賞品をもらったり、ついでからの休憩場所も2階貸切であずましかつたし、温泉には4回も入ったし、あれで豚汁をおかわり出来れば申し分がなかったけれど、体重オーバーの事を考えればあれ位でよかったのかね。

料金もチョットで済んで、帰りのおみやげ『緑茶ようかん』は本当にうれしかった。

今後共、『日帰り温泉旅行』位の企画をたくさんやって欲しいと思う。

日赤の長岡さんはじめ『日帰り温泉旅行実行委員会』の皆さん、本当にごくろうさまでした。またひとつ、たのみます。

おわり



先日市立の透析室空室の中で、話題が、次の様な事があった。

それは、透析と透析の間の余暇を何か意義のあるものにしたのと云う……。

子供にも手がかからなくなったかわりに、お金がかかる様になった理由ももちろん含まれている。と同時に時間の流れる速さには唯驚くのみで、時には恐怖にも似た感があるせいかもしれない。このまま一生が終わってしまうのではないかというあせりも確かにあるであろう。自分の能力に合った軽作業ならはきくと出来ると思う。それがささえになれば、生活にも欲が出て来るだろう。一人では一日置にしか出来なくても、同じ考えの人が二人でなら交替に続けられる。等々話に花が咲いた。

こういう事は一人では出来なくても、腎友会が窓口になり、斡旋してもらえはと云う事になった次第である。

次にもう一つの話。

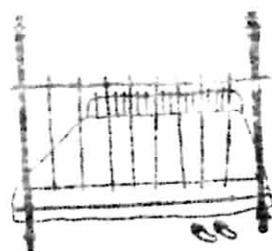
それはCAPD(持続的腹膜カン流)の事だ。全道的に30人弱の人がこれを行っている。と最近聞いた。それで、それらの人々に聞かえければわからない事だが、導入の動機、結果、透析との違い、日常の暮らし、結果的に良かったか、悪かったか……。これらの事についてぜひ知りたいと思う。いつだったか腎友会でこの講習会みたいなものがあつたが、機会があればぜひもう一度聞いてみたい。今、現実に市立病院でそれを行っている患者さんがおり、経過が良好であることを知らされるにつけても、自分でもやってみたいと云う思いにかられる。透析の5時間と云う拘束時間から離され、食事の制限も解かれるだけでも大いにミ力ある話ではないだろうか…。透析に変わる液の交替等の手数、用具時間等もちろんあるが、それを全部差引いても、ぜひ試みても良いと思うのは私だけだろうか。

市立リポート 木村俊

「おかしなまの5年」

創設 赤十字病院

長岡久雄 (33)



今からちょうど10年前(昭和50年)に

私は、札幌に本社を持つK広告会社の創設局でグラフィックデザインの仕事をしていた。支局開設2年目で人手も少なく忙がしかた。ある日、風邪をひいていたのでしょう、会社でとても身体がだるかった。熱を計ってみると40度もある。忙がしいので仕事続けていたが、我慢できなくなり近くの内科に診てもらった(3月19日)。

診察の結果「急性腎炎」とわかる。先生が「すぐ入院して安静にしていなと将来廃同様に、透析をしなくちゃ社会復帰が可能になるよ」と言われた様に記憶している。もちろん血圧も高くショックであった。同年4月に結婚式を挙げる事になっていた入院するのを渋っていたが、親などと話合いの末、4月1日に入院した。5日に一病院を抜け出し、翌6日、帯広で式を挙げ露宴も盛大であった。新婚旅行も行けず院に戻り、5月末まで入院。その間「絶対積に!!」と言われていたが、友人が「暇そだから、これやりな!!」とジグソーパズル持って来たので熱中した。

6月1日～9月30日まで、自宅療養しながら通院していたが、身体の調子がすぐれなので、病院を変え日赤病院(三輪先生)で察してもらおう。すぐ入院で11月末まで、ヶ月入院した。

その後、55年2月まで(約5年)会社に入り、勤務しながら通院。

その間、会社で野球チーム等をつくり、過な運動で汗を流した事も、毎度の事で、酒浴るほど飲んだ時もある。「塩分も控え目」と言われていたが、結構「しょっぱい」のを食べていた。もちろん血圧も高い。時には、鼻の血管が切れて病院に駆け込み、を止めてもらう。そんな訳で生活も乱れた。

55年2月、風邪をひいて会社を休んだ。そのうち何を食べても「すぐ吐く」ようになり、3月1日病院に行った。肺炎をおこし尿毒症も併発していて、最悪の状態入院となる。翌日より急激に悪くなりはじめ、真夜中には親・兄弟が帯広から来ていた。

その時わたしは、「このまま死んで行くんだな」と思ったが、死の恐怖感など全くなく、気持が良かったのを覚えている。後から聞いた話では、「コンスイ状態に入っていきこのままの状態では死ぬかもしれない」と先生に言われ、女房も心細くなり、親に連絡したそうです。

それから、下腹部に「針」を刺し、腹膜カン流のはじまりだった。始めた頃は8時間もの間、2000ccのカン流液を入れて出して入れて出しておの繰り返しで、とても辛かった。2週間後、左手にシャントをつくり、いよいよ3月25日より、私の透析が始まった。

受けつけなかった食事、身体の回復と共に少しずつ食べられる様になり、寝たきりで歩けなかったが、歩けるようになった時は、嬉しかった。なによりも嬉しかったのは、ずっと付き添ってくれていた女房が、家に帰れる様になり、帯広の実家に預けておいた2才8ヶ月になる娘が、戻って来て会えた時だった。それから退院まで毎日の様に面会に来てくれた。食事指導も終え、5月25日より通院透析となり、6月より勤務したが、7月11日血清肝炎の為、2ヶ月の入院となった。

その後、10月まで会社に務めたが、とうとう解雇された。失業保険で暮らしていたが保険が切れる頃、子供を保育園に預け、女房が働いてくれる事になり、私も収入を得なきゃならないので、翌年(56年)デザイン業で自立してみたが、一日おきの透析では、納期などの問題があり断念した。

翌57年2月、帯広時代からのデザインの師匠であった人が、独立3年目で軌道にのってきたので、私に声をかけてくれた。それ以来、今日までお世話になっている。もちろん給料は今までの半分であるが、好きなデザインの仕事を出来るのだから文句はない。

透析生活も3月25日で満5年になる。透析を始めた頃、2才8ヶ月だった娘も、今年小学2年生。透析のおかげで生きられ、子供の顔を見ていられると言う事が、何よりも幸福である。

先輩透析患者たちは、自分たちでお金を払い、お金の続かない患者たちは、透析も受けられず死んでいったそうです。今の私達は、恵まれています。これも、先輩透析患者及び各関係の方々の恩恵を受けています。感謝しなければならぬでしょう。

一人の力では何も果せません。今まで恩恵を受けた分、腎友会などに参加して、自分のため、そして、これからも増えつつある患者のためにも、微力ではあるが、頑張りたい。

最後になってしまいました。透析5年、先生をはじめスタッフの皆さん、いつもありがとうございます。そして、10年間私の『力』となり『支え』となってくれた女房、ありがとう……!!。同じく娘よ、ありがとう……!!。皆様方には、これからもお世話になることと思います。よろしくお願いします。

今の私は、とても『しあわせ』である。



## 『協立病院に移って』

協立病院 藤原 一文

皆さん今日は、ご機嫌いかがですか。

昨年(1970)の10月26日に、協立病院へ移ってからもう3ヶ月経ちましたので、自分自身の病状とか心境、病院に対する率直な感想等を気の向くままに綴ってみました。

まず第一に感じた事と言えば、スタッフの皆さんが大変親切だ、と云う事である。スタッフの方々にしてみれば、当たり前なのかもしれない。しかし、私としてみれば、病気とか食事の事、または私生活の面でも何かと相談に乗ってくれそうなのである。昨今の病院はとかく儲る事ばかり考えている様だが、これから医療に係る人達は、病気を直す事だけでなく社会復帰への意欲を掻立てる様な治療姿勢が要求されると思う。

次に透析機械の事であるが、これも私にとって大変な驚きであった。ダイアライザーという機械は、今では当たり前なのかもしれないが、以前治療を受けていたコイル式とは比べものにならない位性能が良く、200近くあった血圧は140位に下がり、また検査データも除々に良くなって来た。医学の進歩と云うか、単なる延命の時代から、社会復帰への移項が容易になった現在は、私達透析患者にとって大変有難い事である。そして、夜間透析という事に成れば、もう完全に社会復帰が可能な状態になると思う。幸にして現在の私の体調は頗る快調で精神的にも肉体的にも自信満々である。

然るに労働意欲も沸上がり、この2月から遙遙阿寒町から釧路へと毎日仕事に来ているのである。食事は水分制限を重点的に行っているが、あとは殆んど無制限に近い状態(病院からは注意されている)で、質と量のバランスを保つ様に心掛けているのである。

昨年(1970)から今年にかけて病院を変ったという事は、私にとって大きな転換期であり再出発への礎となった。日本史に例えるならば、大化の改新、又は明治維新にも匹敵する様な大き

し、心がなごむのであります。

これを感じた患者の方々も、前向きに、  
「生きよう」と動かし、一日も早く社会復帰される  
様子を心から望みます。

以上感じたままを述べてみました。

### 「私の透析生活・一年をふりかえつて」

道東勤医協・釧路協立病院  
宇井美江

寒さのきびしかった釧路も、このところ少  
しずつ春の兆しをみせてきました。

太陽の光がだんだんと温さを増してくるよ  
うに私の軀の内にも元気な力が満ちてくるよ  
うな気がいたします。

ふりかえってみますと、早いもので人工透  
析をはじめた1年7ヶ月、協立病院へお世話  
になって1年余りたちました。

60余年、十勝ですごした私にとって、人  
工透析という耳新しい治療を我身が受けな  
ければならなくなり、それによって、となり街  
とはいえ、漁業の街釧路へ移ろうとは夢にも  
思っていないことでした。

田舎で老夫婦のんびりくらしていたのが、  
急に大きな歯車にのせられたような気ぜわし  
い時をすごしてきたおもしろいのです。

昨年の正月五日、協立病院へ転院してくる  
頃は『遺言を用意すべき時』と覚悟してお  
りました。

体力の消耗もはげしく、回復できるものか  
どうか、全く自信がもてない状態で、周りにも  
ずいぶん心配をかけました。

娘夫婦の強引な説得で転院したわけですが  
入院第1日目から『こんな病院生活もあった  
のか』と思うほど快適な日を送らせてもら  
いました。

適切な処置はもちろんのこと、患者にとっ  
て周りの環境も治療に大きく効を奏してく  
るものです。

諸先生はじめ、看護婦さん、職員の方々  
が一丸となって親身に接して下さる、その温  
さは今も変わらず私を支えてくださっています。

温さと言えばほとんど食事もとれず最悪の  
状態のとき、調理室から直接、あつあつのお  
かゆを届けていただきました。

ふうふう言いながら食べた、あのおいしか  
った温さも一生忘れないことと思えます。

週二回の透析も軌道にのり、体力も序々に  
回復した昨年四月、待望の退院が許可されま  
した。

私の人生再出発のときです、ちょうど孫も  
小学校へ入学するという希望のふし目に半年  
余りの入院生活から開放された喜びは、言い  
あらわしようがないほどでした。

それから一年近く、孫もせつせと学校へ通  
い、私も一日おきにせつせと透析をうけに通  
っております。

孫たちと暮らすことが夢だった私にとって  
時には願しいまでに元気な二人の孫にかこま  
れて平穏な日々を送っております。

病院へでかける寒い朝、二歳半の孫が、ま  
わらない口でけんめいに『いってらっしゃい  
またきてね』と送り出してくれます。

厳しい寒さで凍てつく手足もこの一言でや  
わらくような気がいたします。

周りの多くの人は『一生透析とは気の毒に  
……』と私の身を案じて言ってくれます。

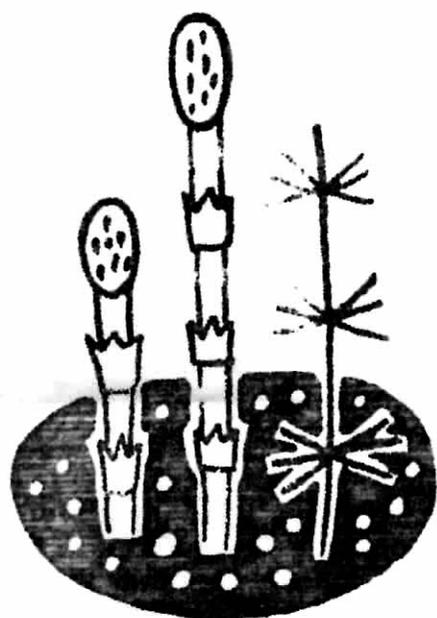
しかし、今の私は不安が全くないといえ  
ばうそになります、一日おきの通院も仕事と  
おもしろい、はりきってでかけていますし、家  
にいるときは気ままに家族の者のハンテン作り  
や、くつ下あみなど充実した時をすごして  
います。

めまぐるしかったこの一年を無事通過した  
ことによって、得られた体験を力として、こ  
れからの人生に大きく役立たせていきたいも  
のと考えています。

今後も多くの皆様にお世話になりますが、  
よろしく願ひいたします。







### 編集後記

道東地方も雪が消え、本格的な春の到来ですね。訓警会も5月19日(日)の総会にむけて活発に動いております。

会員の皆さんも戸外に出て散歩したり、近くの山野へ、『ふきのとう』『アイヌねぎ』『セリ』『うど』『たらんぼ』等の山菜とりに出かけてみてはいかがでしょうか。

会員の皆さんからの行楽情報や計画などを編集部までお気軽にお知らせ下さい。

次号には『楽しい行楽の思い出』を特集してみたいと考えております。

会員の皆さんで、作り育てる機関紙『たんちゅう』、原稿をお待ち致しております。

